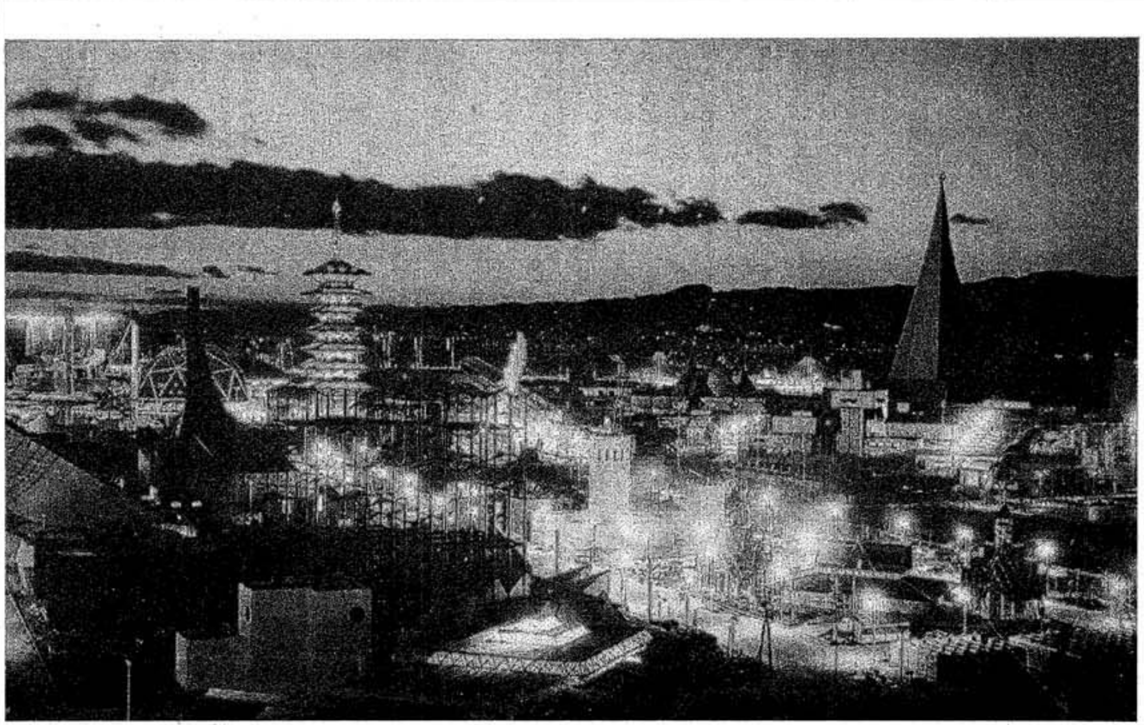
三笠産業ニュース

発行所
東京都千代田区猿楽町 1-4-3
三笠産業株式會社
電話東京03(292)1411 大代表
テレックス 222～4607
郵便番号 101番
PR旬報　年4回発行

人類の進歩と調和

EXPO'70

史上最大の万国博開く！



日本万国博覧会は、三月十五日から九月十五日までの百八十三日間にわたり、「人類の進歩と調和」をテーマに、世界の七十七ヶ国が参加し、凡そ三百三十万平方米の広大な、大阪千里丘陵に於て、華々しく開幕された。既に開会式の模様は、テレビや新聞に報道されて、吾々日本人を興奮させたばかりでなく、アメリカ、カナダ、ブラジルなどの国々にも、宇宙中継され、世界の人々と共に、この祭典の喜こびを分ちあったわけです。

この万国博は、世界の人々の英智と努力とをかたむけてつくられた偉大な進歩の跡が、まざまざと目の前に展開され、誰の口からも、同じように感歎の声がもれていました。

開会式の、パトリック、リード、カナダ政府代表の祝辞の中にも『万国博が初めてアジアにおいて開催され、かくも建築上の傑作を創造された有能な日本のみなさまの指導性に対し、深甚なる敬意を表します。日本のみなさまは、過去の幽玄な華麗さと現代の溌剌たる生命の根源をなす活力とを見事に融合せられました。世界の各大陸から参加した個性あふれる展示館は、善美をつくして完成しました。若い国には、自国の国旗が、大きな国々の国旗と並んでひるがえることに誇りを感じて居ります。』と述べられたこのお言業が、よくこのたびの万国博の全[illegible]余すところなく表現されて居られるように思われます。

この万国博は、鍬入れしてから四年間の歳月を費し、日本人特有の突貫工事に物を云わせて、見事期日迄に完成させたもので、其の蔭には、主催者当局は勿論のこと、施工の任に当る建設業者を初め関係業者各位の並々ならぬご苦労があったことと深くそのご努力に対し敬意を表します。この間まことに微々たるものではありましたが、会場の整地に或は基礎固めに、或は道路造り等の諸工事に三笠製品が次々と採用されて行ったことに、深い感謝と大きな誇りを感ずるものであります。

万国博のご成功を心からお祈り致します。

◇

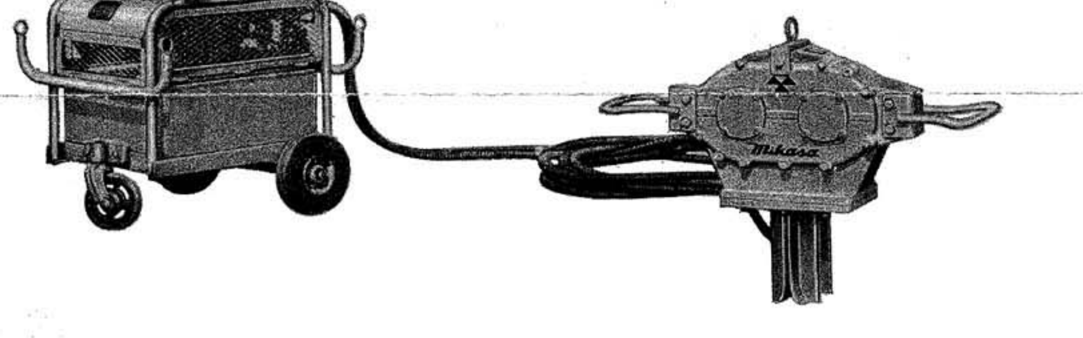
◇

◇

新製品発表

MOH型油圧式杭打機
パイルハンマー誕生

六月発売

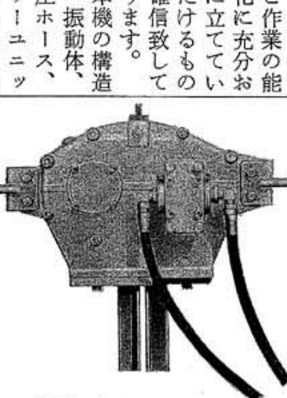


昨年来より考案研究中であった、油圧式パイルハンマーがここに完成致しました。この新しく開発されたパイルハンマーは、土木、建設工事の需要に応じて誕生した弊社独特の油圧駆動方式による小型で強力な振動杭打機です。本機の構造は簡単で、各要部は極めて堅牢に造られ、軽量小型のため、取扱いが容易でどこへでも迅速に移動運搬して、作業の出来る大変便利な新製品です。

最近軽量のシートパイルや、鋼管、丸太、角材等の打込み工事に於て、この種杭打機のご要求が、とみに高まりつつある折柄、ここに待望の本機の完成を見るに至りましたことは、今後のご作業の能率化に充分お役に立てていただけるものと確信致して居ります。

本機の構造は、振動体、油圧ホース、パワーユニットの三基により構成されております。パワーユニットは、既に発売されて好評を得ているMOB—32型油圧式コンクリートブレーカーのものと同じで共通して使用出来ます。この場合は、ブレーカーへッドのジョイント部より油圧ホースを外し、それを杭打機の油圧モーターにセットして、パワーユニットと油圧ホースとのジョイント部の所にチェックバルブを付ければ直ぐに作業が出来るようになっています。操作も頗る簡単で、最初にユニットのエンジンを起動し、油圧ポンプの働きにより高圧側のホースに圧が加わりましたら、ここでチェックバルブを閉めて行くと徐々に振動体の回転が上がるので低振動から高振動まで、地盤及び打込材料により使い分けることが出来ます。

振動体は特殊軽合金製のケース内に、強力な振動を発生させるため、強固な振子とギャーを両側に装置して、各々が反対方向に回転し、上下振動が起きるように設計されてあります。打込チャック（アタッチメント工具）に於いても打撃による曲げ及び割れを防止するため、材質、構造等には特に注意して造られています。



（振動体の裏側、油圧ホースのジョイント部）

本機の特徴

一、小型軽量でしかも強力振動である。

二、作業、移動、運搬が容易である。

三、足場の悪い現場でも、容易に作業することが出来る。

四、打込チャックの交換により多種多用に利用することが出来る。

五、地盤により更に強度の打込みを必要とする場合には、振動体の左右にバランサー（分銅）を取付けて打力を倍加させることが出来る。

六、打込チャックさえ取替えれば、引き抜きや鰻圧も自由に出来る。

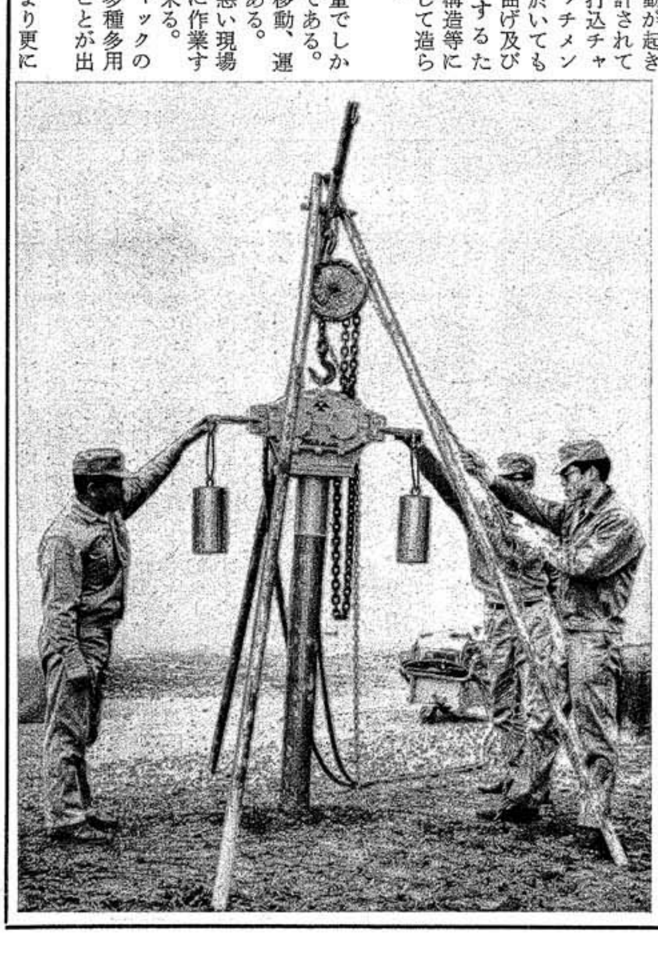
七、油圧を駆動源にしているので油量調整により振動数が変えられ地盤や打込み材料等に応じた作業が出来る。

八、手元への振動を防止するため、ハンドル部に防振ゴムを使用しているので、作業が非常に楽である。

九、本機のパワーユニットで、コンクリートブレーカーも使用出来るので大変経済的で且便利である。

十、油圧駆動のため、他の小型杭打機に比べて、故障する個所が少ない。

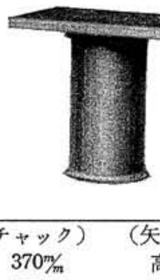
十一、価格が低廉である。



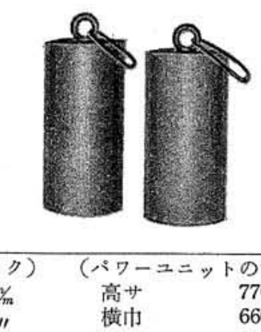
○第14回東部地区三笠代理店会開催

日時　5月26日（火）～27日（水）
場所　伊豆伊東温泉「よねわか荘」

（矢板用打込チャック）



（丸太用打込チャック）



（バランサー（分銅））

（振動体の寸法）

高サ	445%m
横巾	930〃
厚サ	300〃
重量	69kg

（丸太用打込チャック）

高サ	370%m
横巾	320〃
厚サ	200〃
重量	15.0kg

（矢板用打込チャック）

高サ	270%m
横巾	320〃
厚サ	200〃
重量	16.2kg

（パワーユニットの寸法）

高サ	770%m
横巾	660〃
長サ	800〃
重量	85kg
油量	50 ℓ

衝撃数	1,000～1,300 V.P.M
遠心力	3,500～5,000kg

（バランサー）

直径	140%m
高サ	250%m
重量（2ヶ）	60kg

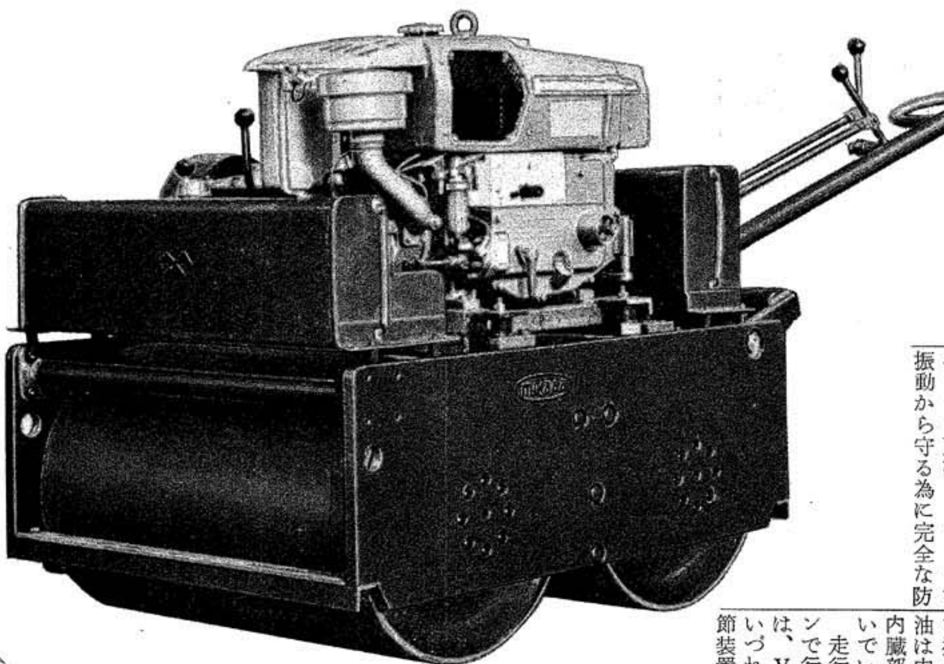
油圧ホース	内経12.7%m×10m
エンジン	ロビンEC16V
出力	8 PS
回転数	5,000 R.P.M

45年度新製品発表

両輪駆導式

MWR－11型ダブルバイブレーションローラー

九月発売



MWR―11型ダブルバイブレーションローラに就て

本機は、現在館林工場で製作されているMRV＝12型バイブレーションローラー（搭乗型）と、春日部工場で製作されているMRV＝10型インパクトローラー（ハンドガイド型）との中間サイズで、永らく皆様方より御要望に接しておりましたものを、長期にわたり、あらゆる面から研究を重ねた結果、ここに漸く試作機の完成を見るに至ったものでございます。

本機は、高速微振動のダブルバイブレーションローラーで、一般の路盤輾圧はもちろんのこと、アスファルトの舗装仕上にも、平滑で密度の高い最高の能率と性能を発揮致します。また、アスファルト舗装にはかかせない散水装置も兼ね備えて居ますから、一層ご便利かと確信しております。ローラーは理想的な、両輪駆動方式ですから走行中絶対スリップすることなく、これまで作業不可能であった、軟弱路盤も手軽に出来るばかりでなく、法面作業に於ても25度までは、いかように使用されても、充分その性能を発揮し、中途での停車ブレーキも完全でございます。

従来この種の両輪駆動ローラーに於いては、狭域な場所での作業はステアリングが取れないため、作業困難であるという最大の欠陥を持っておりましたが、本機ではアタッチメントとして油圧作動によるステアリングガイドローラーを考案して、これを取付けておりますので、どんな狭い場所でも作業し易く、逆に広域な個所では特に直進性能がすぐれていますから、作業者はほとんどハンドル操作をすることなく輾圧仕上に従事することができます。

ローラーの径も、これまでのこの種のローラーより大きく、巾も800㎜と広くなっているので、作業能率は抜群となりました。更に作業者の身長の高低に合わせて調節出来るハンドルを備え、前後進レバー及び振動レバーも、ミッションとハンドルとにダブルに取付けてありますので、本機に近づいての細かい操作も遠隔操作も可能となり作業者は気軽に安全に操作出来るようになりました。

もちろん作業者に不快な振動が伝わらない様そしてエンジン及びミッションを振動から守る為に完全な防振対策が施されています。

これまでのローラーはサイド輾圧が出来ない為、ローラー作業をした後、ランマーや、コンパクターを使用しなければならないという二重手間を費やしてきましたが、本機は、サイド輾圧も可能な構造としましたので、建造物の裏込めや、道路縁石の際まで一回で完全に輾圧仕上が出来、大きな経費の節約となりました。

又大型輾圧機には危険をともなう路肩輾圧等にも安心して、設計通りの見事な作業能率を発揮させることが出来ます。

ローラーの心臓部とも云うべきミッションには、熱処理を施した特殊鋼をふんだんに使用し、湿式クラッチを内臓して、その設計精度は極めて完璧です。

ミッションは無給油方式を採用しておりますので、油は内部で自動的に循環し内臓部品の摩耗を完全に防いでいます。

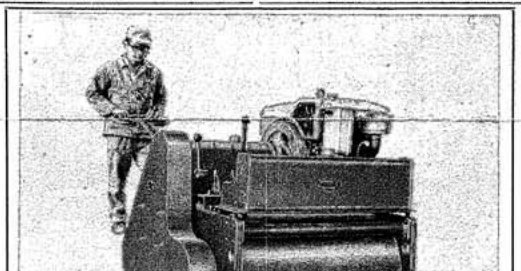
走行伝達方式は、チェーンで行ない、振動伝達方式は、Vベルトでしてあり、いづれにも、テンション調節装置が備えられてあります。

その他各部の締付には特殊のハイテンションボルトを使用し、ゆるみ止めに完全を期すと共に安全基準の面からも、ベルトカバー、チェーンカバーを併用し、各部共完全密閉された構造になっていますから、機内に及ぼす塵埃の被害はほとんどありません。

エンジンは、三菱重工製M11＝31A水冷ディーゼルエンジンを採用しております。

一般に空冷ディーゼルエンジンでは騒音がひどく、又始動性が不充分であり、皆様方も水冷エンジンを使い慣れておられます点をお考え、特に水冷エンジンを採用しました。

三菱M11エンジンは、-10度Cまで一発で始動するという、他社にはない二段噴射のマジックスターターを内臓し、始動性能は抜群であります。



ディーゼルエンジンに於ては、一般に固有振動が高く平地運転でも完全にエンジンを固定しておかないと、どの方向かに動き出すものですが、当エンジンには新考案のスーパーバランサーの採用により、何時も安定したいわゆるおとなしいエンジンでございます。

騒音についても又サイレントポンプの採用により、ディーゼルエンジン特有の耳障りな、カン高い音が消されておりますので、気持の良い作業を続けることが出来ます。

本機の法面作業にマッチしたエンジン単体の傾角運転は前後25度、他の全方向度と他社エンジンにはない性能を持っています。

燃料消費も190グラムと少なく、あらゆる面で優れた経済的なエンジンです。

特長

① 高速微振動の両輪振動です。

② 両輪駆動で法面作業も軟弱路盤も簡単に入り込めます。

③ 散水装置完備で平滑なアスファルト仕上げが出来ます。

④ サイド輾圧や危険な路肩の輾圧に最適です。

⑤ アタッチメントでステアリングが取れます。

⑥ 本機の傾角運転は前後二十五度ですから特に両輪駆動の威力を法面輾圧に於いて発揮します。

⑦ 作業者の身長の高低に合せた調節可能のハンドルがついています。

⑧ エンジンは静かで始動は一発、力は抜群です。

⑨ サイドブレーキがついています。

⑩ ミッションは無給油式ですから手間がかかりません。

⑪ 振動対策は万全になっております。

⑫ エンジンは固有振動を低くするため新考案のスーパーバランサーを採用していますから耐久性が抜群です。

⑬ この種のローラーとしては価格が頗る低廉です。

◇　◇　◇

仕　様

ローラー径	508mmφ	全装備重量	940kg
ローラー巾	800mm	速度	1.5km/H
軸長	570mm	振動数	3600VPM
全高	約 1120mm	遠心力	1800kg
全巾	1020mm	輾圧能力	9～11ton
全長	約 2750mm	登板能力	25°
総重量	900kg	水タンク容量	約40 ℓ

（エンジン）
三菱重工製　M11―31A 水冷ディーゼルエンジン常用 8PS/2200rpm

第二回　交通事故防止講習会実施

（富田交通課長）

春の全国交通安全運動に先駆けて、神田警察署交通部並びに交通安全協会の御指導に依り、交通事故防止講習会を三月二十日(金)午後六時から本社会議室に富田課長、鈴木主任、立田係員の三氏をお招きして実施した。

此の講習会は、社員からの要望により、これから最盛期を迎[illegible]、車で出張する機会が非常に多くなってきたので、いつどこで、我が身に危険を生じないとも限らない現状の交通戦争に対処するため是非講習会を実施して欲しいとの自発的な申し出があったため、免許証のない男女社員も混じって頗る盛況を極めた。講習に先立って富田課長自ら交通問題に対しての講話がユーモアに進められ、続いて鈴木主任立田係員が神田地区に於ける交通事故を具体的に例証を挙げて説明された後、質疑応答が活発に行われ、最後に今回封切りの「一億人の恐怖」と題する映画が上映された。これは実に生々しい記録映画で、目を覆うものもいて一寸ばかり強烈で可愛想でもあったが、現実の厳しさを目のあたり見た運転者のためには、今後のよきみせしめとなり、又一般の歩行者も常にこれに協力しなければ解決出来ないということを出席者全員が理解し反省してくれたことにより、今日の講習会のもつ主旨が徹底されたことで非常に大きな収穫であった。

今後共このような意義ある講習会を年一回定期的に開く事に対して協力したいとのお言葉を頂いて意を強くした。最後におそがしいなかにもかかわらず、我が社のために御指導下さった富田課長、鈴木主任、立田係員に厚くお礼申し上げます。

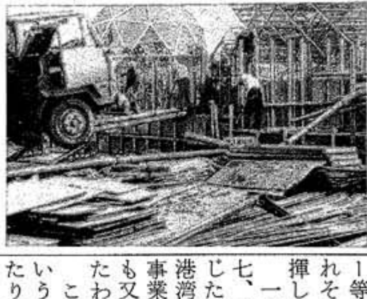
―松下報―

万国博と三笠の建設機械

竹藪を切り開くブルトーザのエンジンの音が千里丘陵に初めてこだましたのは去る四十二年一月十五日、日本万国博の工事用道路の着工によりこの壮大な事業へのスタートを切ったのであった。

かくして早くも二ケ月後の三月十五日に起工式が行われ、敷地造成工事が始まり、十月上下水道の管渠、管路工事十一月電気、通信、ガスの施設配管工事が着工。この時、我が三笠の錐振型バイブレーター数十台が、又軟弱な土壌の締め固めに一二〇型タンピングランマー十数台が万博工事の一翼をになって力強く登場したのであった。

三笠製品群は万博会場工事に於てこの時に始まり、各パビリオンの建設、橋梁、造園等の工事へとすみ、この敷地造成工事の完了した四十三年七月十五日から、いよいよ百十五館の外国政府及び国内企業の展示館の建設がカナダ館を皮切りにその幕を切っておとしたのである。日本政府館に次いで二番目に広大な敷地面積をもつソ連館の基礎輾圧には小型ながらその輾圧力は10トンローラーにも匹敵する10型インパクトローラーが活躍、大型ローラーの進入の困難な場所での強力な輾圧に威力を発揮した。又アメリカ館に於ては、三笠が輾圧技術の総力を結集してランマーの革命とまでいわれ、今も尚無事故記録を続けている80型タンピングランマーが圧倒的人気を博した。この他多数の内外展示館をはじめ協会施設として、本部ビル、お祭り広場、多目的ホール等数多くのパビリオンの他二八、〇〇〇台収容の駐車場の建造や会場内の道路舗装工事やこれら建築の基礎工事にも前記の三笠製品の他、2S型、3A型バイブロコンパクター、MCD3型コンクリートカッター、MHCS8型ハンドカッター、簡易ロードフニッシャー等各現場に幅広く使用されその優秀性を遺憾なく発揮した。



三笠バイブレーターを使ってパビリオンの基礎工事

一方これに並行して、約七、五〇〇億円の巨費を投じた道路、鉄軌道、空港、港湾等整備に関連する公共事業が次々と着工、そこにも又多数の三笠製品が働いたわけであった。

このようにして、万博という一大建設工事を目のあたりに見て来た私はそこに機械化された日本の高度の建設技術に接して今更の如く驚歎させられたのであった。今こそ我々は改めて責任の重大さを認識すると共により優れた機械の開発に努力しなければならない事を痛感した。

日本万博は四十五年九月十三日その幕を閉じる。しかしこの未来都市への建設の鼓動は永遠に止まらないであろう。

（大阪三笠建機　田中報）

次号俳句募集

当季雑詠　1人　5句以内
用　紙　ハガキ又は便箋縦書
締　切　6月20日
社外からの投稿を歓迎する
評句のものには薄謝を呈す

特殊建設機械メーカー
三笠産業 提供
12 チャンネル
毎週月曜日夜 7時56分ヨリ
ひとくち 演芸（えんげい）

○お知らせ
四月から放送時間が変りました。

三笠産業俳句

穂波選

横浜　加藤京女
病む人の永き冬威に耐えて生く

茅ヶ崎　川口きよい
一列のあひるおかしや春の川
花の人避けて学舎に入りにけり

横浜　村松みね代
万博に明日への世紀風光る
此の丘も売れるうわさやつくし摘む

茅ヶ崎　裕司郎
花屑を巻くつむじ風五十過ぐ
踊り手に今日が過ぎ行く花の下

横浜　神吉烟村
薄氷のとけでまだあり昼時報
夢の中に春の雨ある朝戸繰る

茅ヶ崎　百合子
夕桜二人して見る一つ窓
糸屑を払う余寒の薄き膝
シクラメン脈とられいる白き腕

館林　武井光彰
骸と化し白菜は春の土摑みをり

（評）万物すべて生ありという意か、畠に、ほうり出されている白菜の残骸の中から一とつまみの土をしっかりと、握っている哀れな姿のどこかに春の訪れがうかがわれて心を和ごますものがある。

三和建材興業（株）
新社屋落成

（天野社長と落成した新社屋）

山梨県下に於いて最大の規模を誇る甲府市三和建材興業株式会社（社長天野義治氏）では、この度業務の進展に対処したスマートで明るい新社屋が完成、一月十日目出度く落成式を挙行された。

当日はあたかも新社屋落成を祝うが如く、雲一つない小春日和を思わせる暖かさで、地元建設業協会有志を始めとして、全国各地から集まった各メーカーの人達で雑踏し、会場は正に熱気に満ちていた。

式は午後二時から市内甲斐奈神社の神宮（女官）の祭事に始まり、天野社長の挨拶に引続き、協会代表・各メーカー代表と三和建材さんの永年の功績をたたえた祝辞がつぎつぎと続きその洋々たる前途を祝して盛大な落成式の幕を閉じた。

披露宴は市内〝田幸〟に移して参会者一同和気あいあい裡に杯を重ね同社の今後の御発展を祝って夜半迄つづいた。

当社からは星野営業部次長が出席してお祝いのお言葉と共に、今後益々盛大に御発展されることをお祈り申し上げた。

新社屋内容
敷地面積　六六〇㎡
本社建物
延二八〇、五㎡
一階事務所　一二二、一㎡
サービス工場　五九、四㎡
部品庫　三九、六㎡
更衣室他　五九、四㎡
二階社長室　一九、八㎡
会議室　三九、六㎡
応接室　一九、八㎡

—星野報—

営業所落成記念
サカモト展示実演即売会

（落成した新営業所と坂本社長）

今回㈱サカモトさんでは、創業二十周年を期して、有限会社を株式会社に変更されると同時に国道十八号線にマシンセンターを建設して、旧来の扱い商品の中から特に、土木、木工、建築の機械類を大々的に販売する体制を整えられ、二月二日から四日までの三日間建設機械、木工機械、各種電動工具等メーカー二十五社の参加のもと盛大な展示会が開催された。

開催期間中は殊の外余寒厳しき折柄にもかかわらず連日百名を越す来場者で賑い頗る好評を博した。我が三笠産業では、東京の代理店である宮城鋼具さんの後援の下に、MTR＝80型ランマーを始めMOB＝32型油圧式ブレーカー、MHC＝8型ハンドカッター、MVC＝2S型及び3A型のコンパクターの他各種バイブレーター等、三笠の主力製品を展示して、集中的な人気を呼んだ。中でも保証書付のタンピングランマーには特に関心を持って見て頂いた。又建具や建築関係者にはあまりご使用される機会の少ない筈の油圧式ブレーカーに殊の外興味を示され実演の申し込みがあったが、展示会場が室内の為出来なかったのは残念であった。

未筆ながら三日間の開期中御来場頂いた参観者並に主催者サカモトさんの皆様の御協力に対し紙上から厚く御礼申し上げます。

—荻本報—

（株）大和伊勢崎営業所
落成式と展示即売会

（新営業所社屋と大和社長）

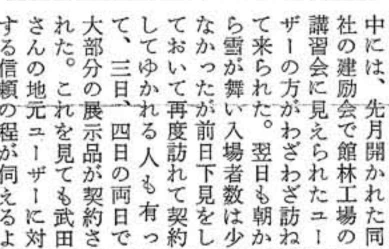
このたび群馬県伊勢崎市に㈱大和さんの伊勢崎営業所が新築落成した。敷地二二〇坪に総建坪数一〇〇坪（一部二階建）事務所三八坪倉庫六二坪の鉄筋プレハブ造りである。これにより今後の群馬県下に於ける販売促進も大いに期待出来るものと思う。昨年の十二月十五日、工事に着工して以来約二ヶ月、本年二月十日に芽出たく落成したものである。

二月十四日の落成式当日は、地元名士や各メーカー及びユーザーの代表等多数出席して盛況を極め、式は大和章偉会長の御挨拶に始まり次いで大和正弘社長、大和通泰常務（大和、両毛プラザー会名誉会長）と続きメーカーを代表して松下電器産業東京営業所々長と東和電器㈱専務の祝辞が述べられた。特に大和会長にとっては、ご出身地でもあられるだけに、故郷に錦を飾る事の出来た誇と一方郷土人としての使命の重大さを痛感されて居られたようで、今後より一層発展を期する為には、是非共メーカーの援助なくては、と、メーカーとデーラーとの密接なる提携を強調されて居られたには、列席者一同深くその意気に感動して、心からご協力しなければならないと思った。午後四時をまわったところ、列席者一同による万歳三唱でお開きとなり、翌十五日より二日間にわたって新築落成を記念する取扱商品の展示即売会が、大和、両毛プラザー会主催のもとに開かれる為、各メーカーはそれぞれその準備にとりかかった。

十五日、十六日の両日は、晴天に恵まれ群馬の空っ風がひねもす吹き荒れて、寒さは厳しかったが、それでも延べ一〇〇〇名を越えるユーザーの方々に来場していただき、地元の利を得た今後の大和さんの発展が、大いに期待される二日間であった。今後は私達協賛メーカーも、それぞれ自社製品の実演に説明に精々張り切って、大いにバックアップに努めたいと思う。未筆ながら㈱大和さんの増々の御発展と御活躍をお祈りしてやみません。

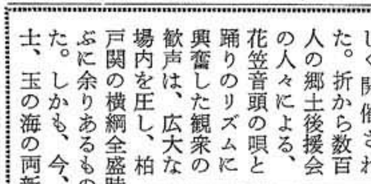
—徳永報—

武田展示即売会


（吹雪の中に開かれた展示即売会）

昭和四十五年三月三日から三月四日の二日間にわたって㈱武田さん主催による展示即売会が開催された。出品メーカー約十五社の協賛により、多数製品が陳列されたが、折からの風雪に初日は人の出足も控え目であった。昨年に比べて、今年は出品の種類も多く、我社に於てもバイブレーターから小型ローラーに至るまで約十五～六種の機械を出品した。近年人手不足から来る労働力の不足を機械力で補なうとする傾向が強く反映されて、来場された方々も雪の中を我々の実演や説明に熱心に耳を傾けられ、中には自から実演機に手を触れて、その機械の性能を確かめられるなど真剣なそのお態度には感激させられた。初日には早やくもインパクトローラーが決まり、地方のユーザーも従来の機械に対する考え方が変ってきた事を物語るようであった。又今回初出品のMVC＝100型バイブロコンパクターに於ても早速土間の工事に使用したいとのお申出でがあり、即座に展示会の実益性が発揮されたように感じられて意を強くした。又来場される人々の中には、先月開かれた同社の建励会で館林工場の講習会に見えられたユーザーの方がわざわざ訪ねて来られた。翌日も朝から雪が舞い入場者数は少なかったが前日下見をしておいて再度訪れて契約してゆかれる人も有って、三日、四日の両日で大部分の展示品が契約された。これを見ても武田さんの地元ユーザーに対する信頼の程が伺えるようであった。連日の雪にも拘らず終始、我々の実演や説明を見聞していただいた方々に対し深く感謝すると共に武田さんの今後増々のご発展をお祈り致します。

—徳永報—


（館林工場を見学された建励会の方々）

〝昭和45年度〟

建設機械展示会

主催　日本建設機械化協会

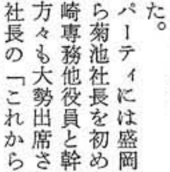
【開催予定日】

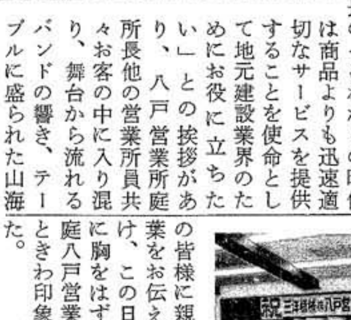
4月22日～27日	札幌市
5月22日～31日	東京都
10月15日～20日	名古屋市

大阪国際見本市
4月16～29日

（東京本社、大阪三笠建機に入場券が用意してあります）

三洋機械（株）八戸営業所
十周年記念と
新築移転披露パーティ


（落成した新営業所と庭所長）



三洋機械「株」（本社盛岡市本町通り六ノ三ノ十二）では、八戸市に営業所を開設して十周年を迎え、さらに昨年末に落成した新営業所（八戸市小中野下四ッ谷五ノ二）の新築移転を披露して、早春の三月十日『八戸グランドホテル』に主要取引先六十数社、メーカー商社等二十数社を招いて盛大な披露パーティを催した。

パーティには盛岡の本社から菊池社長を初めとして山崎専務他役員と幹部社員の方々も大勢出席され、菊池社長の「これからの時代は商品よりも迅速適切なサービスを提供することを使命として地元建設業界のためにお役に立ちたい」との挨拶があり、八戸営業所庭所長他の営業所員共々お客の中に入り混り、舞台から流れるバンドの響き、テーブルに盛られた山海の珍味、八戸ホステスの愛嬌あるサービスに、早やくも会場内の各所に湧く談笑の渦、その中をお客の一人一人に親しく話しかけ、打ちとけ合って、なごやかに場内を廻っている社員の方々の姿は喜びに溢れていた。弊社からも京谷専務が出席して、社長初め社員の皆様に親しくお祝いの言葉をお伝えしたが、とりわけ、この日の会場に、感激に胸をはずませて居られた庭八戸営業所長のお姿がひときわ印象深く感じられた。

—京谷達也—

祝 三洋機械㈱八戸営業所開設10周年記念パーティー
（八戸グランドホテルの披露パーティ）

横綱柏戸の断髪式
年寄鏡山襲名披露

昭和の相撲史に画期的な柏鵬時代を作り上げた、横綱柏戸関が引退することになり、その断髪式と、年寄鏡山を襲名する披露とを兼ねた大相撲が去る二月二日正午から、東京蔵前の国技館を、かつてのファン凡そ一万余人で埋めつくして、華々しく開催された。折から数百人の郷土後援会の人々による、花笠音頭の唄と踊りのリズムに興奮した観衆の歓声は、広大な場内を圧し、柏戸関の横綱全盛時代を偲ぶに余りあるものがあった。しかも、今、北の富士、玉の海の両新横綱の誕生を見たその推挙式の終えたばかりの、玉の海の露払い、北の富士の太刀持で、柏戸最後の土俵入りを見ることの出来たのは、正に圧巻ともいうべく、永く相撲史に其の英姿を止むることであろう。

（鋏入れする三笠の京谷社長）

引続き、断髪式には、後援会長の前衆議員議長石井光次郎氏をはじめ、郷土の名士や後援会関係の人々約百五十名の他、かつてのライバル大鵬関や相撲協会の出羽海理事長等の鋏入れが行われ、最後に師匠の伊勢の海親方の髷の元結いを切落して、十五年の土俵生活に訣別を告げる柏戸関の目には、感激の涙が光っていた。わが社からは、京谷社長が鋏入れに加わった。

尚引退相撲打上げ後、東京駅の大丸八階ホールに於て盛大な披露パーティが催された。

尚年寄鏡山となった柏戸は、東京都江戸川区小岩に相撲道場を開設して、新弟子の養成に当るとのことである。

（F生）

◇　◇　◇　◇

○第十三回笠友会総会開く

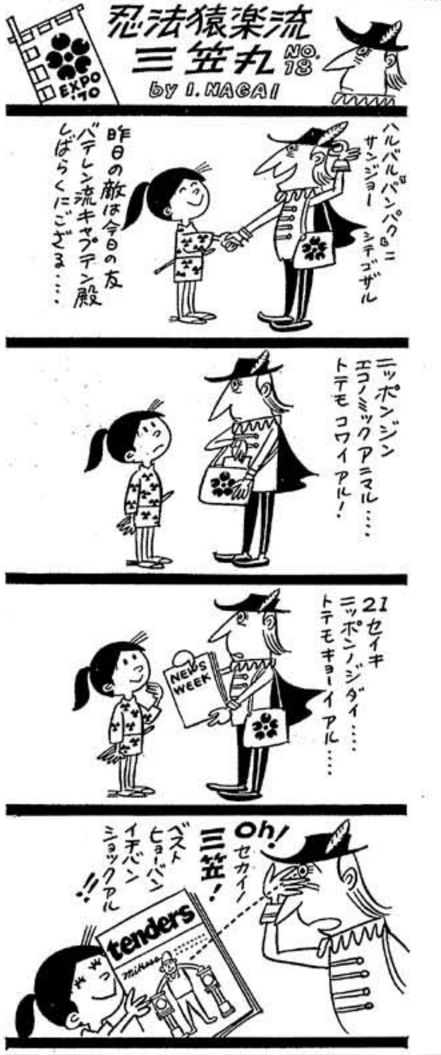
今年は、九州横断ということで、三月二十五日雲仙有明ホテルに、総会々場が決まった。総員三十三名、東京発十六時のひかり六十一号で出発。新大阪駅で特急寝台彗星に乗換え。翌朝六時二十五分別府着。心配された天候も上々、駅前から用意された貸切バスで、一路やまなみハイウェーを阿蘇に向う。温泉街の随所に湯煙が立ち湧出量の豊富さを物語っていた。野焼した跡もまだらに雪の残る草原、春まだ遠しと言った城島高原を通り阿蘇山へ登る。ロープウェーから更に火口行マウントカーに乗り換えて昔から限りなく霊火を燃やし続けている中岳噴火口に着く。二日程前降ったとの雪が、当りの連峰を薄い白地に染め朝日に照らされた其の光景は、なんとも言えない美しさである。

しかし肌を突き刺す様な寒さで一同、口から白い息を吐きながら再び元のバスで熊本へ向う。やがて水前時公園に到着。細川忠利公が造られたと言う、東海道五十三次を模した広大な水と緑の美しい廻遊式庭園は中々美事なもの。こゝで昼食をすまし、熊本城を車中からのぞきながら、二十八億の巨費を投じた五つのかけ橋パールライン（天草五橋）大矢野島へ渡る。左右の美しい紺碧の海面を眺めながら永浦島、池島、前島を経て、天草上島の会津港からフェリーに乗船。島原港に上陸、直ちに本日の宿泊地雲仙へと車を飛ばす。阿蘇と共に世界の雲仙と迄知られて居るこの山は、昔其のまゝの状態で湯の噴出している地獄谷などを車中から眺めながら四時半有明ホテルに着き、直ちに総会に移る。

総会は、加藤会長の挨拶があって、「この頃の資材の値上りや人手不足には実に困っている、三笠の社長としてこれに対しどのようなお考えを持って居られるか」と質問されたのに対し、京谷社長から「おたづねの問題に就ては、本社の営業とても同様で、経費は益々嵩んでゆくのに、販売価格は上げられないというのが実状で、これを切りぬけるには、お互いに製作部門は高性能な機械設備をして、生産の合理化を計り、営業も又機動力を活用して、販売の合理化を計る以外に策はない」と述べられ、更に今後の建設業界の見透しに就て私見を開陳されて三笠の進むべき70年の方向の一端を表明された。次いで各幹事より経過報告其他議事の進行について質疑応答があって、無事総会を終了した。それより一同一風呂浴びて、午後六時半より懇親会に入った。盃の重なるにつれ、雲仙の花形連中の踊りなどに興じて和気あいあいの内に終宴。

翌朝九時ホテルを出発。我が国のキリスト教発祥の地と言われる、長崎へ向い、崇福寺、大浦天主堂、グラバー邸、孔子廟、長崎の街などを見物した後、原爆の町長崎の悲話をガイド嬢から聞きながら西海橋を渡り伊万里、唐津を経て博多に入り、板付空航から帰路に就いた。

（川口報）


忍法猿楽流
三笠丸 NO.18
by I.NAGAI
EXPO '70
ハルバルバンパクニ サンジョー シテゴザル
昨日の敵は今日の友 バテレン流キャプテン殿 しばらくにござる…
ニッポンジン エコノミックアニマル…… トテモ コワイアル!
21セイキ ニッポンノジダイ…… トテモキョーイアル……
NEWS WEEK
Oh! セカイ! 三笠!
ベスト ヒョーバン イチバン ショックアル!!
tenders
mikasa

三笠初午祭

（本社）恒例の三笠初午祭は二月七日土曜日、午後三時三十分から神田明神より加藤神官を招いて、本社ビルの屋上に祭られてある豊川稲荷社の社前に於て厳粛の内にも盛大に取り行なわれた。

本社々屋新築の際、屋上へ豊川稲荷をお祭りしてから、本年で七回目を迎えた初午祭は、あいにくの曇り空の下、身の引き締る寒風の中ではあったが、来賓に群馬、三菱、住友の各取引銀行の支店長さんや係の方々を始め、三笠グループの桜電機、中央螺旋、田摩フレックスの各社長をお招きして、厳かな加藤神宮の祝詞奏上の後、雅楽越天楽の奏でる中を、社長始め幹部社員及び来賓の方々と、順次玉串を奉奠して、エキスポ70の年の商売繁盛と家内安全を祈念した。

式典の終了後、四階のフロアをいっぱいに使った特設会場で、全社員及び招待者共に、賑やかに祝宴が催された。「お稲荷さんの由来」を説明された社長の挨拶を皮切りに、中央螺旋田口社長の音頭で乾杯が行なわれ、稲荷講の夜は盛大にそして歓談の中に過ぎて行った。

—藤村—

（館林工場）

恒例の三笠初午祭が、二月七日（土）おごそかに執り行われた。昨年に続いて今年もまことに静かで、あたたかい春を偲ぶ、よい日和であった。

前庭の稲荷社には、紅白の幟が朱色の鳥居の左右にはためき、躍進三笠の将来を祝福するかのように翻える。時に三時三〇分。

遠藤市長ほか多数の来賓を迎え、京谷専務、小林工場長、全従業員参列の中に、尾曳神社田島宮司の祝詞奏上、玉串奉奠の儀にうつる。

京谷専務、小林工場長、長谷川職長、福岡協力工場代表と続いて、来賓代表として、市長、会議所会頭(代)等、終了後京谷専務から来賓の方々に対し、日頃当社の為に御協力下さる温い御気持に、感謝のことばが述べられ、又、全従業員に対して、優秀な三笠製品製作の努力に、感謝の言葉と、近時、三笠の製品が全国は勿論、広く海外にも活躍好評を博していることは皆さんの誠意と努力の賜物と、強調激励され、一同深い感激と誇りを新たにした。

かくして一同、三笠産業の繁栄を心から祈って、厳粛の中に式典を終了、直ちに祝宴場に移る。

紅白の幕につつまれ、梅花馥郁たる会場に、盛大な祝宴が開かれた。

小林工場長から四十余名の来賓の方々に、今日に至る迄の御支援に心からの感謝のことばが述べられ、又、工業団地進出の決定を見、名実ともに、建設機械のトップメーカー三笠の確立への意欲と決意を、力強く示され今後とも変らざる御後援を切望すと挨拶すれば、これに応えて、市長、議長、大田県議、松本専務理事等の祝辞があり、正田卯平氏の乾杯の音頭で開宴され、なごやかにして盛大な稲荷祭は時の移るのも知らず歓談が続き、やがて遠藤信金理事長の三笠産業の発展を祈っての万才三唱と盛大な拍手の中に宴を閉じた。時に五時三〇分。

◇　◇　◇

—斎藤—

（春日部工場）

二月七日午後三時三〇分より、春日部工場の名物男で通っている八幡神社の押田宮司をお招きして、恒例の初午祭が厳かに挙行された。

当日はあいにくの雨模様にもかかわらず、社長の名代として吉田常務をはじめ、多数御来賓の方々、そして長谷川工場長以下全従業員の一人一人が同時刻に行われている本社、館林工場の初午祭を身に感じ、連帯感を深め、社業の発展と社内の安全を祈願し、三笠産業の一層の躍進を神に誓って、初午祭の式は終了した。

式の終了後、全員席を工場内の食堂にうつし、御神酒を頂載して盛大なる祝宴を開いた。

祝宴に先がけ、吉田常務より春日部工場従業員に励ましと謝意の表明があり、続いて長谷川工場長より地元各界の方々の三笠に対する御援助と御協力に対して、深い感謝の意を披歴した後、佐藤機械㈱佐藤社長の音頭で乾杯し一同祝宴に入った。

地元割烹「甲子」から差し廻しの美妓連をまじえて、飲むほどに酔うほどに話がはずみ歌などとび出して、一同すっかり打ちくつろいだ楽しい雰囲気の内に七時頃散会した。

—小森報—

□京谷社長宅
新年賀詞交換会

一九七〇年の初頭をむかえた湘南の海はおだやかでこれがやがて、どこかで、黒潮につながるなどとは、思えないほど平和なたたづまいであった。南向きに開けたこの森戸砂浜はあたたかで霞もたなびき東京地方のように晴れていながらどんよりと曇ったうすら寒い乾き切った気候とはうってかわり、いかにも長閑で新鮮そのもののようなきれいな空気に接して、感慨一入深いものを感じた。

（葉山マリーナーにて京谷社長夫妻を囲んで乾杯）

一月四日、恒例の社長宅新年賀詞交換会は、明るく熱っぽい笑顔に新しい年への意気が満ち満ちて、相変らず頼もしい限りであった。

先ず主任以上が社長宅奥の間に集り社員を代表して吉田常務から社長御夫妻に新年の賀詞を申し上げた後御屠蘇を頂戴し、よく手入れの行き届いた庭園で新春の陽をいっぱいに浴び乍ら和やかに社長御夫妻をかこんで記念のカメラにおさまった。

引続き葉山マリーナーに社長御夫妻を初め本社全社員が打揃い、他に小林、長谷川両工場長、中央螺旋管(株)田口社長、桜電機(株)横手工場長等三笠グループの方々が集まられ席上京谷社長より、70年のスローガン『三笠オール躍進』を旗じるしに各部課一致団結して会社の繁栄向上に一路邁進しようと三笠産業の新しい年の門出にふさわしい力強いお言葉をいただき、一同深く決意の新たなるものを感ぜずにはいられなかった。

やがて、宴の進むにつれ会場より見える海の地平線の彼方に太陽が沈む頃ともなれば、飲むほどに酔うほどに一同の顔もあからみ、傾いた夕陽が赤々と会場一ぱいにさし込んでいやがうえにも錦上花を添えてくれるのであった。

—炭報—

□三笠箱根新年宴会

（割箸ゲームに興じる社員達）

我が社恒例の箱根塔ノ沢、新玉ノ湯における新年宴会は、正月十、十一日の両日盛大に催された。例年小田急ロマンスカーで箱根の山に登っていた我が三笠隊は、今回は趣向を変えて貸切バスで、十日午後三時、見習社員を除き、小林、長谷川の両工場長を加えて総勢五十数名本社前から一路高速一号線を意気揚々と出発した。我々は幸いにも天気に恵まれ、いっそう今日の旅行を楽しいものにして呉れた。そのうえ東名高速道路を走りながら容姿端麗な日本一美声の持主といわれるバスガイド嬢の一声一声が、旅行気分に拍車を掛け、どこまでもつづく、コンクリートの舗道と広々とした田園風景と其の果に連なる丹沢、箱根の諸連峰其の麓にあの古びた、新玉ノ湯が、シンキローのように目に浮ぶ思いであった。

新年会は、開宴に先だち、社長より七〇年の心構として、お互に礼節を重んじ、規律を守って、立派な三笠社員としての人格をつくろうと力説され、社員一同決意を新たにした。つづいて、昨年度の皆勤者の表彰があって社長賞が授与され、更に本年成人された方々へ会社から祝品が贈られた。そこで専務の乾杯音頭により、プレーコーの祝宴に入った。やがて箱根のキレイドコロや新玉の従業員の参加で割バシゲームが開始された。籤引きで十人づつ組分けされて、チーム毎に、割箸を口にくわえ、ゴム風船の結び目のリングに引っかけてそれを次ぎ次ぎとリレー式に早く送るゲームである、みんな一等賞を貰おうと、真剣な面差し、それが真剣であるだけに風船の受け渡しをする顔面の動きに一同爆笑の渦に巻きこまれて、夜の更くるも忘れすっかり童心にかえって、新年会にふさわしい一夜を楽しく過すことが出来た。

—中島報—

松浦会開く

京谷社長のハルビン時代の友人達（かつて三笠の株主だった人もいる）で結成されている松浦会の第十二回総会が去る二月二十三日、伊豆の大仁温泉ホテルに於て開催された。

山頂に広大な庭を巡らすこの大仁温泉ホテルは、先づは修善寺、湯ヶ島、古奈船原などの温泉とは地形上俗化されない環境に恵まれているだけに、至って物静かでグッと落ちついていてしかもスケールが大きい。部屋の窓から眺める遙か前方の城山の奇峰と其の麓を狩野川が帯状に流れる伊豆平原の冬の雄大な景色は実に素晴らしく、意外なところで掘り出し物を発見したような感がする。

相変らず元気者の神戸の子安君、黙々と居て愉快でたまらないと云って写真を撮って呉れる名古屋の岩田君、昔話がなつかしくて眠れないという浜松の米沢君など、それに本年は、遠く金沢から七十[illegible]才の老駆をひっさげて[illegible]された松本先輩に最大の敬意を表したい。この会は今から、五十年も前にさかのぼった、ハルビン時代の若者達が、其の頃の思い出を語り合い、なつかし合うためにつくられた会だけに、何れを見ても七十歳前後の老人ばかりだが、扨て昔の若者が一堂に集るとなると、其の旺盛なる意気や正に当たるべからざるものがある。いつもながらこの会のまとめ役片柳、川村両幹事の労を深く感謝して筆をおく。当日の出席者＝松本、子安、岩田、米沢、奥貫父、奥貫、能勢、溝口、大橋、島田、片柳、小林、京谷、八木、松広、川村。

第一回本社々員誕生会発足

第一回目の月例誕生会が去る二月二十七日午後五時三十分より、本社会議室に全社員六十余名が集って賑やかに開催された。これは毎月その月に生れた人達を社員全員でお祝いし、併せて参会者相互の親善を深めようという主旨のもので、館林、春日部の両工場では既に行われていたが、此の度社長のお声掛りにより本社でも本年より実現する運びとなった。

第一回目に当った二月は当月生れの人とさかのぼって一月生の人達も共に繰り入れてお祝したので、祝福を受けた社員は十二名という大人数となった。

当日は、それぞれ各自仕事を終えた後、会場である会議室に集まると、会場には既にカクテルパーティーの用意が整えられ、テーブルにつくと間もなく、今日の主客である一、二月誕生の社員が胸に大きなピンクのバラの花の徽章を着けて現れ、皆んなに拍手をもって迎えられ、社員を代表して社長からお祝いの言葉が述べられた。

例年の社長誕生会には社員全員が招待を受け、社長を囲んでお祝いしていたが、今年からは社長もこの月例誕生会の一員となって、皆と共にお祝を受けることにすると挨拶された。

当日誕生者の最年長者である京谷専務が、謝辞を述べた後、この会を本社と技研の社員のような或は同じ本社内であっても普段ゆっくりと話し合う機会のない社員同志の話し合いの場として生かして行きたいと挨拶された。誕生者のテーブルにはバースデーケーキが並べられ、社長から一人一人に記念品（銀カップ）が贈られた。この銀カップは、五個で一組となるようにしてあって、五回目の時には、副賞として、このカップにふさわしい何かが贈られることになっているとのことである。式は次回の主賓である平戸幹事長の音頭で乾杯が行なわれ、和気藹々とした誕生会の宴はなごやかな歓談の中に時を移した。

一月誕生者（京谷専務、星野次長、森課長、近藤主任、管野主任、伊藤敏江、片谷、渡辺悦子、高田）

二月誕生者（松下課長、斎藤とし子、喜納）

—藤村報—

（誕生者に渡された記念の銀カップ）

壮年式を挙ぐる会

二月十六日（月）本社会議室に於いて

本年二月で満五十歳に達せられた我が社の小林取締役館林工場長、長谷川取締役春日部工場長、川口経理部資材課長の三氏の壮年式を本社会議室に於いて挙行した。本来ならば全社員が出席して祝福するところであるが会場が手狭なため、社員を代表して課長以上が出席した。

席上社長より三氏の健康を祝福し併せて永年わが社の発展に努力された其の功績を讃えると共に今後益々の活躍を期待する旨の祝辞と社長直筆の色紙と記念品の贈呈があり、三氏を代表して小林工場長が社長より贈られた色紙が三氏夫々の性格を卒直に俳画と俳句とに依り表現されていた事に感激し、そのためにも五十歳を境として此れから改めて人生の第一歩を踏み出すべく会社のために全力を傾倒する旨の感謝と心構えの謝辞があって出席者全員で三笠の社歌を合唱し三氏の健康を祝福して乾杯した。

祝宴は会場を赤坂の松喜屋に移し社長の五十代の頃の想い出話しとして其の頃の諸君は、三十才そこそこで、今で云えば係長クラスと云ったところだった思とう。だが実際の仕事は、何れも部長級の責任ある仕事をピチピチと処理していたのだから、今考えて見ると、会社が今日のようになったのも諸君が偉かったからだと賞讃され、更に三氏の入社当時の会社状況や現在との比較等がユーモアを含めて果しなく花が咲き、我々若手組が手に負えない程の猛ハッスルで時間の過ぎるのも忘れて語り合った。このファイトがいついつまでも持続される事を祈ってやまない。

—松下報—

祝詞を述べる京谷社長と（向って右側左から小林工場長、長谷川工場長川口資材課長）

三笠札幌出張所開設!!

来る四月二十日(月)より営業を開始致します。

札幌市大通西八丁目二番地　疋田ビル二階
電話(25)二八九〇
所長　佐潟行松
主任　岩崎和義